

# ボランティア等との協働による シカ食害対策 — 剣山・三嶺の植生回復に向けて —

**四国森林管理局**

国有林野事業の取組

平成23年のネット柵内の植生回復状況



剣山・三嶺周辺は、国の天然記念物に指定されているミヤマクマザサやスズタケの天然植生のほかコメツツジ、ウラジロモミ、ブナの天然林が広がっています。また、一帯には環境省のレッドリストにおいて絶滅のおそれがある地域個体群に指定されているツキノワグマの生息地域があり、四国森林管理局は平成15年に「四国山地緑の回廊（剣山地区）」に設定し、保全・管理等に取り組んできました。しかし、ニホンジカ（以下「シカ」）による樹木の剥皮被害、ササの食害などがみられるようになり、平成19年頃からは、山頂・稜線部のササ原の広範囲な枯死、周辺の天然林での樹木の枯死、下層植生の衰退が進んでいます。

## 深刻化する被害

徳島県と高知県の県境近くにある剣山・三嶺（徳島県では「みうね」周辺（徳島及び高知中部森林管理署管内）は、高知県中部を流れる物部川の源流域に当たり、四国山地の登山の人気エリア。この一帯ではシカの食害が深刻化しており、四国森林管理局及び関係署がその対策に取り組んでいます。



平成20年の三嶺周辺

廊（剣山地区）」に設定し、保全・管理等に取り組んできました。しかし、ニホンジカ（以下「シカ」）による樹木の剥皮被害、ササの食害などがみられるようになり、平成19年頃からは、山頂・稜線部のササ原の広範囲な枯死、周辺の天然林での樹木の枯死、下層植生の衰退が進んでいます。

被害の著しい所では、ササなどの植生が消失・裸地化して、土壌の流出が見られるなど、放置すれば裸地化が一層拡大するおそれがあります。

また、このあたりは剣山国定公園、水源かん養保安林・保健保安林、国指定鳥獣保護区にも指定されるなど、自然環境の保全上、非常に重要な地域です。

## 具体的な取組

地域住民等の協働による対策とし



ボランティアによる防護ネット柵設置

て高知県側では、地元での自然保護団体や登山者団体、大学の研究者等で構成される「三嶺の森をまもるみんなの会(代表: 依光良三高知大学名誉教授)」(以下「みんなの会」)が中心となり、森林管理局・署、自治体等関係機関との連携・協働により、平成19年秋から剥皮被害防止のための単木保護ネット巻(通称「ラス巻」)、希少植物を保護し植生回復を促すためシカ防護ネット柵の設置、被害状況や回復状況を把握するためのモニタリング調査、多くの市民への普及・啓発と関係者の共通認識を深めるためのシンポジウムの開催、環境学習活動などに取り組んでいます。

ラス巻、防護ネット柵の設置は、高知中部森林管理署が資材を確保し、みんなの会がマンパワーを提供する形で始まりました。

作業はみんなの会のほか、高校生、大学生から一般市民まで幅広く、毎回100名近い参加を得て行っています。登山口から歩いて1時間半以上かかる現地もあり、資材等を担いで登ることもあります。

これまで、14回、延べ1,500名が参加。ミヤマクマザサ群落などに防護ネット柵を約40箇所、剥皮被害が顕著なウラジロモミなど約4,500本以上にラス巻を設置しました。また、ボランティアでは設置が困難な遠隔地等での防護ネット等は森林管理署が設置しています。

## 取組の成果

### (1) 現地の回復状況

植生の回復状況を把握するためのモニタリング調査の結果、防護ネット柵の内外では、植被率(地表が植物で覆われている割合)、植物の高さ、出現種数に大きな違いが出ており、防護柵の設置効果が顕著に現れています。

一方、周辺地域では、地元自治



二ホンジカ捕獲



平成23年のネット柵内の植生回復状況

体等によるシカの個体数調整のための捕獲も実施されており、被害は一時期に比べればピークを過ぎたようですが、生息密度は依然として適正密度より相当高い状況です。

また、防護ネット柵の外側でも、シカが嫌う植物が拡がりを見せ、中でもシカ食害に抵抗力があるイネ科植物のヤマヌカボが旺盛に繁茂し、土砂の流出を防止している箇所も見受けられます。みんなの会メンバーの高知大学グループは、傾斜が急で植生回復が十分でない箇所に、周辺から採取したヤマヌカボの種子を蒔いて早期の緑化を図る実験も行い、効果が出てきています。

### (2) 活動の拡がり

こうした取組は、県境を越えて徳島県側での活動にも拡がっています。

また、狩猟や地元自治体等による個体数調整のための捕獲に加えて、周辺地域において徳島及び高知中部森林管理署が「わな」による捕獲に取り組んでいます。

これらの取組は、平成23年度に林野庁国有林野事業業務研究発表会の「国民の森林部門」で発表され「日本林政ジャーナリストの会会長賞」を受賞しました。

## 今後の取組

こうした取組で被害はピークを過ぎ、一部回復している箇所もありますが、まだ回復基調にない箇所もあり、継続した取組が必要です。

また四国では従来、主に東部と西部でシカの生息密度が高かったものの、近年は中部地域など他の地域への生息の拡大も懸念されており、徳島、高知両県のみならず、香川県、愛媛県を含む四国四県及び関係機関の連携がさらに重要です。四国森林管理局は、今後も地域の皆さんと共に植生回復に取り組む、三嶺をはじめとする四国の貴重な天然林・天然植生の保全・再生のため、シカ対策など推進していきます。